

産業用品から日用品に生まれ変わった小野田の陶器

■支援の概要

山陽小野田市の窯業は長い歴史の中で人々の生活と深くかかわってきた産業のひとつです。19世紀には小野田にセメント会社や硫酸製造会社ができることで小野田の窯業も変革を迎え、当時の製陶所では「硫酸瓶」が主力製品となりました。

このたび、当時の硫酸瓶の姿を忠実に再現した10分の3スケールの陶器を開発しました。焼酎瓶や花瓶のような日用雑器として使いやすい製品になっています。

■支援の項目

- ① 小野田の粘土を使用した鋳込み成形に最適な泥漿（でいしょう）の検討
- ② 石膏型を用いる排泥鋳込み条件の検討

製品開発のプロセス

鋳込み成形に最適な泥漿の検討



石膏型を用いた排泥鋳込みの検討



泥漿の着肉速度・排泥時間の検討



焼成温度と焼成雰囲気（きようき）の検討



日用雑器として開発した陶器

（高さ：約16 cm 直径：約11 cm）

■支援の成果

- ① 当時の小野田で製造されていた硫酸瓶をイメージできる陶器製焼酎瓶として、令和6年4月に製品化されました。
- ② 硫酸瓶の寸法比を忠実に再現しながら小型化することで日用雑器として用途展開しました。
- ③ 山陽小野田市のふるさと納税の返礼品としても取扱いを開始する予定です。